

## 本県における雑草イネの越冬後の出芽動態 (第2報)

### 1 背景・目的

雑草イネは栽培品種に混ざり生育し、減収の要因となるとともに、玄米果皮が赤いため製品に混入すると等級落ちを招くことから、全国的に問題となっている。

本県が属する寒冷地南部での除草剤体系を明らかにするため、全国で発生報告が多い雑草イネ2系統の越冬後における出芽動態を調査する。

### 2 技術のポイント

- (1) 2019年秋に播種したときの出芽時期は、いずれの系統も2020年5月上旬から6月上旬で、その後は2021年秋まで出芽はみられなかった(図1)。
- (2) 雑草イネは第1葉抽出以降には除草剤の効果がないことから、6月上旬までの出芽抑制には、雑草イネに有効な除草剤を10日毎に散布する体系処理(移植時期により2回または3回)の実施が必要である。

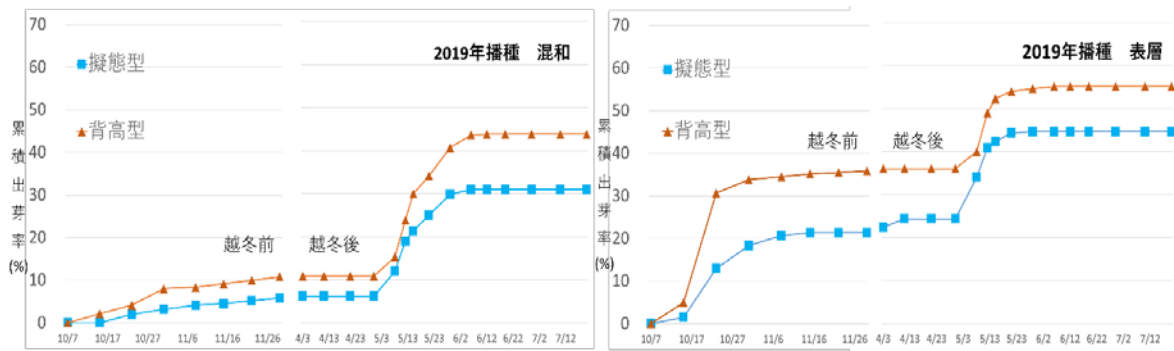


図1 雑草イネの出芽動態 (2019年播種、2019年秋～2021年秋)

※雑草イネはステンレスザルに100粒を播種、出芽個体を抜取りにより出芽率を調査

※処理は表層区(脱粒後秋耕起なしで地表で越冬)、混和区(脱粒後秋耕起して越冬)を設置

### 3 成果の活用と残された問題点

- (1) 本県における雑草イネ発生時の除草剤散布時期を示す指標となる。
- (2) 本試験は2019年秋から2年間、農研機構供試雑草イネ種子2系統(2019年産、背高型及び擬態型)を用いて行った結果である。
- (3) 雑草イネの出芽抑制のため代かきから移植までを3日程度とする。
- (4) 出芽動態は、気温、降水量等の気象条件、種子の休眠性により異なるため、継続して調査する必要がある。

問合せ先：作物栽培グループ TEL 076 - 257-6911

担当者：島田雅博・吉藤昭紀

※本研究は、農林水産省委託プロジェクト研究「直播栽培拡大のための雑草イネ等難防除雑草の省力的防除技術の開発」の支援を受けて行った。